

# 平成4年度 名古屋大学教育学部心理教育相談室活動報告

## I 相談員の構成

平成4年度の当相談室の人的構成は、教育学部臨床心理系教官4名と教育心理系教官1名、事務職員2名、面接指導員8名、大学院生26名、大学院研究生1名であった。さらに、準相談員として学部4年生10名が加わり、総勢52名という大世帯であった。今年度より「発達臨床学専攻」の後期課程が設置され、3名の院生が後期課程に入学した。こうした大学院生の増加とともに、相談活動がさらに充実することが期待される。

室長は、若輩ながら本城がつとめさせて頂いた。

## II 相談活動

### 1. 平成4年度新規相談受案件数

本年度の新規受面接者は105名であった。相談者の人数は近年漸増傾向にある。相談者の年齢、性別、主訴は表1から表3に示されている。

年齢では、幼児・児童が26.7%、中学生以降のケースが73.3%であり、前年に比べ中学生以降の相談の割合がやや増加している。

性別では、男子45.7%、女子54.3%と若干女子に多く、これは前年とほぼ同じ割合であった。

主訴（診断）は、表2、表3に示されているが、幼児・児童では発達障害と情緒障害がそれぞれ約半数づつを占めており、発達障害では「自閉症」が、情緒障害では「不登校および学校不適応」がそれぞれ最も頻度の高いものである。中学生以降の問題では、「不登校および学校不適応」の問題で本人自身あるいは親が相談に来ることが多く、これらの訴えが約半数を占めている。次いで、対人恐怖等の神経症圏の問題や、夫婦関係の問題などが大きな割合を占めている。さらに、精神分裂病やうつ病などの重篤な精神障害に関する相談も数は多くはないが認められた。

ところで、表2、3に示された主訴（診断）分類は十分に整合性のあるものとは言えず、当相談室として今後どのような分類を採用するかはさらに検討が必要と思われる。

### 2. 平成4年度面接種別相談受案件数

本年度の面接種別相談を各月別にまとめたのが表4である。

年間の相談総数は、3,717回であり、前年に比べ189回多く、相談室はじまって以来最多の相談件数であった。こうした状況のもと、施設の狭隘化が最大の問題点となっている。

面接種別では、個人に対して心理的援助を行う「臨床心理面接」が一番多く、1,557回であった。これには、思春期以後の個人面接だけではなく、親が登校拒否等の子どもの問題について心理的援助を求めてくる場合も含まれる。次いで、幼児、児童を対象とした「遊戯面接」が1,186回、遊戯面接に併行して行われる親に対する「心理教育面接」が830回であった。なお、当相談室では、

表2 12歳以前の診断（主症状）別受面接数

診 断（主症状）	件 数（%）
発 達 障 害	15 (53.6%)
自 閉 症（傾 向）	10
精 神 発 達 遅 滞	5
情 緒 障 害	13 (46.4%)
不登校および学校不適応	6
緘 黙	2
神 経 性 習 癖	1
反 社 会 的 行 動	1
集 団 不 適 応	2
学 業 不 振	1
計	28 (100%)

表1 平成4年度 受面接ケースの年齢、性別

	乳幼児 (0~3)	就学前 (4~6)	小学生 (7~12)	中学生 (13~15)	高校生 (16~18)	大学生・成人 (19~)	計
男	5	9	5	6	10	13	48 (45.7%)
女	2	2	5	2	3	43	57 (54.3%)
票	7	11	10	8	13	56	105
	28 (26.7%)			77 (73.3%)			(100%)

重度発達障害児の集団療育援助が行われているが、表4では「遊戯面接」と「心理教育面接」に算入されている。

また、受理面接後、他機関を紹介したり、教育上の助

言を与えることにより、継続面接を行わない「教育指導面接」、ロールシャッハテスト等の心理検査を実施する「検査面接」はいずれも少なく、それぞれ22回、17回であった。

表3 13歳以降の診断（主症状）別受理面接数

診 断（主症状）	件 数（%）
神 経 症 圏 の 問 題	10 (13.0%)
精神不安定（一過性）	5
対 人 恐 怖	2
ア パ シ ー	2
そ の 他	1
人 格 障 害 圏 の 問 題	4 (5.2%)
摂 食 障 害	1
境 界 例	3
精 神 分 裂 病	3 (3.9%)
鬱 病	2 (2.6%)
職 場 不 適 応	4 (5.2%)
不登校および学校不適応	14 (18.2%)
非 行	2 (2.6%)
自 閉 症	2 (2.6%)
学 習 障 害	1 (1.3%)
学 業 不 振	1 (1.3%)
夫 婦 関 係	7 (9.1%)
子 ども の 問 題	26 (33.8%)
不登校および学校不適応	14
ア パ シ ー	5
非 行	3
精 神 分 裂 病	1
学 業 不 振	1
そ の 他	2
そ の 他	1 (1.3%)
計	77 (100%)

### III 研究活動

研究活動は、わが国における心理臨床活動の中心的施設のひとつである当相談室にとって、その社会的使命を果たして行くために不可欠のものである。当相談室では、リサーチ・カンファレンス、各種研究会を開催するとともに、相談室紀要を年1回刊行している。さらに、心理教育相談室をもつ国立五大学大学院合同症例検討会、各学会における発表、全国専門紙への投稿も活発に行っている。

表5に、本年度のリサーチ・カンファレンスの実施状況を示した。本年は4回と例年に比べやや回数が少なく、しかも外部からの発表者のみであった。来年度以降は学内からの活発な発表が期待される。

また、「心理教育相談室」をもつ五大学（九大、広大、京大、東大および名大）の大学院生が主体となって開催されている五大学大学院合同症例検討会は、今年度は東京大学の主管のもと7月17日から19日まで鎌倉で開催された。名古屋大学からも教官、院生が多数参加し、他大学と活発な意見の交換を行い、非常に有意義のものであった。こうした活動の中から多くの優秀な心理臨床活動家が巣立って行くことを期待したい。

### IV 教育・訓練体制

当相談室の教育・訓練体制の中心に位置づけられるのは、ケース会議である。ケース会議は大学の休み期間中を除き、毎週金曜日（リサーチ・カンファレンスの週を除く）夕方5時半より開催されている。

今年度よりケース会議のスタイルが変わり、ニューケースの報告のみをスタッフ全員で行い、ケース検討の部分

表4 平成4年度 面接種別相談受付件数一覧

面 接	月												合 計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
受 理 面 接	13	7	14	12	3	13	7	12	6	5	4	9	105
教 育 指 導 面 接	2	1	1	2	1	4	2	0	2	2	2	3	22
検 査 面 接	1	0	2	3	0	3	3	4	1	0	0	0	17
遊 戯 面 接	78	97	108	119	65	114	122	95	100	94	99	95	1,186
臨 床 心 理 面 接	132	127	152	135	90	137	122	139	136	137	122	128	1,557
心 理 教 育 面 接	49	59	67	80	37	77	85	72	77	77	77	73	830
計	275	291	344	351	196	348	341	322	322	315	304	308	3,717

平成4年度名古屋大学教育学部心理教育相談室活動報告

表5 平成4年度 心理教育相談室リサーチ会議一覧

	演 者(所 属)	題 目
第1回(6月24日)	大 角 義 之 (な ら わ 学 園)	ならわ学園の短期治療と施設が行う家族治療について
第2回(11月13日)	長谷川 啓 三 (相山女学園大学)	家族療法の現在
第3回(12月4日)	西 村 洲衛男 (愛知教育大学)	イメージと心理療法
第4回(3月5日)	空 井 健 三 (中 京 大 学)	投影法と心理療法

は、学部4年生とM1の院生グループとM2以上の院生グループに分かれて行われることになった。これは主として院生の増加という物理的要因によるものであるが、それぞれの経験に応じたより密度の濃い検討を行うことも意図している。また、M1の院生にとっては、このケース会議が「発達援助臨床学研究演習I」の授業となっており、今年度は蔭山教授が担当した。このケース会議と並んで、教育・訓練体制の柱となるのは、スーパーバイザー制度である。学部4年生とM1の院生は各自スーパーバイザーからスーパーバイズを受けることが必須とされており、学部4年生は教官の中から、M1の院生は各自の希望により、スーパーバイザーを選ぶことになっている。また、M2以上の院生も各自自発的にスーパーバイザーと契約し、指導を受けることが望ましいとされている。

以上のように、教育訓練体制も次第に充実したものとなって来ている。

最後に、表6に平成4年度の相談室構成員の名簿を示しておく。

(文責 本城 秀次)

表6 平成4年度 心理教育相談室相談員

教 官	
相談室長	本城 秀次
	田畑 治・蔭山 英順・池田 博和
	平石 賢二
指 導 員	後藤 秀爾・鶴田 和美・伊藤 義美
	長尾 洋之・森田美弥子・石川 雅健
	川瀬 正裕・武内 珠美
大学院生DC	緒賀 聡・吉井 健治・星野 和実
	西出 隆紀・内田 裕之・五藤 弓枝
	金井 篤子
MC	竹内 康子・藤本 朋子・近田 正和
	並木 典子・望月二三男・堀 美和子
	長峰 伸治・石田 智雄・徐 光興
	今村友木子・早矢仕彩子・児玉 真季
	川口十糸美・堀内ちはる・柴田 昌子
	小森 千世・阪本とも子・田中 愛子
	坪井さとみ
大学院研究生	辻井 正次
事 務	今井 理恵・山本真紀子